



TKT



国際交流通信

登美高

第6号

奈良県立登美ヶ丘高校
国際教育部 編集
2019年11月発行

英語民間試験延期 どうして？

急きょ延期された英語の民間試験。来年4月から実施される予定でしたが、受験生などからの反対や、萩生田大臣の「身の丈に合わせて」という発言に批判が集まり、文部科学省は今日1日に、突然、2024年度の実施をめざして延期を決めました。その理由となった「地域格差」などの課題は、同省が非公開で行ってきた会議でも、繰り返し指摘されてきたようですが、その議論の詳細はこれまで明らかにされませんでした。専門家は、「検証のためにもこれまでの議論の詳細を公開すべきだ」と指摘をしています。

また問題なのは、事実上この試験が「センター試験の後継試験」になるということです。全ての学生に「一律に」同じ入試、つまり記述式問題を含む総合的な学力を問う入試問題を実施したとき、すべての受験生に対応できるのか、実際、対応できるのは一部の受験生だけであろうと予想されています。つまり、多くの答案に、空白かほとんど採点不能な解答が増えるのではないかと懸念がされているのです。全ての学生に一律に思考力、表現力を身に付けさせることは大変困難な課題であり、新しい問題形式に対応できない学生たちをどうするのか、また記述式であっても誰でも答えることができる出題となると、どのような形で実施するのかなど、今後も検討されるべき課題が多くあります。

トイレ=110円=キャッシュレス？

スウェーデンのストックホルム市内にあるショッピングモール。公衆トイレに入ろうとして券売機を見たら、10クロナ（約110円）を現金で払うための投入口が見当たらない。よく見ると、「カード・オンリー（カード支払いのみ）」の文字。こんな「緊急事態」でもカード払いだけで問題がないほど、スウェーデンではキャッシュレス化が進んでいるということか。コーヒーショップに入っても、カードリーダーの横に「キャッシュフリー（現金お断り）」のプレート。近くのパン屋も、市場の花屋も、路面のホットドッグ屋も支払いがカードかスマホのアプリだけ。駅の券売機もキャッシュレス。現金で買うには窓口と並ぶ必要がある。



「キャッシュフリー（現金お断り）」のプレート

街を案内してくれたゲーム会社に勤めるアンドレアス・タカナン（35）さんに財布の中を見せてもらった。数枚のカードと、夏に旅行したフィリピンの紙幣が3枚だけ。「この数年、ストックホルムでは現金を使ったことがない」と笑う。



スウェーデンのキャッシュレス化を加速させたのが、2012年にサービスが始まったスウィッシュだ。大手銀行が共同開発した。電話番号と銀行口座をリンクさせ、相手の電話番号だけで銀行口座に送金できる。手数料は無料だ。利用者は710万人と人口の7割ほどにのぼる。使う側だけでなく、店側にもキャッシュレスの利点は大きいという。現金がなければ、レジを設置したり、現金を数えたりするコストを減らせる。現金を盗まれるリスクもない。

中央銀行のリクスバンクの調査では、商店の5割が「2025年には現金が使えなくなる」と回答したそうだ。

対して、軽減税率導入で脚光を浴びた日本のキャッシュレス決済率は、2018年度の経済産業省のデータによると18.4%、世界で最もすすんだキャッシュレス社会と言われている韓国は約90%、中国60%、アメリカでも45%を超えている。今後の日本のキャッシュレス化はどのようにすすむのだろうか。
(朝日新聞 Globe+ より編集)

ーオーストラリア語学研修についてー

来年3月、約2週間の予定で、現2年生の約30名は、オーストラリア語学研修に出発します。あと数ヶ月を残すのみとなり、参加者は日々ALTの先生たちと英会話の学習やパフォーマンスの練習に励んでいます。参加者は今、「ホームステイ先でホストの方とうまく意思疎通ができるかな、自分の言いたいことが言えるかな」と期待と不安の気持ちでいっぱいなのではないでしょうか。

現1年生については、来月に語学研修の説明会を実施する予定です。今から約1ヶ月ありますが、オーストラリアに興味がある又は、自分の英語を試してみたいと思っている生徒の皆さんは保護者の方とよく相談をして説明会に参加してほしいと思います。参加者の決定については選考試験や面接等もありますので、日頃から英語の実力を伸ばすための学習を心がけてください。



先日、奈良公園に行く機会がありました。東大寺の辺りはずいぶん外国人観光客が増えた印象です。実際、2012年に28万人だった奈良を訪れる外国人観光客は2018年には258万人（日本政府観光局統計より）と6年で10倍にもなっています。また、すれ違いざまに聞く言語は中国語が多く、事実県内の外国人観光客の半数近くを占めているそうです。ヨーロッパからの観光客と思われる方々は、フランス人が多かった気がしますが、これも奈良特有で、アメリカ人についてフランス人が多いとの統計なので納得できました。対してこれまで多く聞かれた韓国語、つまり韓国からの観光客はほとんどお見かけせず、少し残念な気がしました。日本全体でも最新の2019年9月統計によると、韓国からの観光客は前年度比、「-5.8%」だそうです。隣国との関係が両国の政治問題に起因して芳しくありませんが、私たちはたくさんの外国からのお客様を分け隔てなくお迎えしたいものです。 国際教育部より